

「平成から令和への手紙」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

私は「昭和最後の日」をよく覚えている。23時59分、NHKのニュースを見ていた。最後の数秒、松平アナウンサーが「まもなく、昭和がの時代が終わります」と述べたのをよく覚えている。

その平成も、あと数日で終わろうとしている。私は平成から令和に変わる記念に、二つのことをしようと思っている。一つは「平成から令和に変わる瞬間の天体写真」これはかつて、似たようなものを試したことがある。20世紀から21世紀に変わる瞬間、北極圏で星の動きを撮影していた。残念ながら、その写真がどうしても見つからない。今回は北軽井沢で星の動きで時代が変わる一瞬を残したいと思っている。

もう一つは「手紙」だ。郵便物には切手(額面部分)に「消印」が押される。これは公的な押印なので、「その日に郵送された」証拠になる。普通郵便では、引受局の消印しか押されず、「平成最後の手紙」か「令和最初の手紙」になってしまう。これでもあとから価値は出るだろうが、記念品としては今一つである。

しかし速達の場合はちがう。「引受局」の消印だけでなく、切手のない郵便物表面に「配達局」の消印も押される。4月30日に速達で投函すれば、5月1日に配達され、「平成」「令和」の両方の消印が残る。私は以下のことにこだわって、準備している。

- ①官製はがき(62円)や郵便書簡(62円)に280円切手を貼って速達にする。はがきや書簡の速達は非常に数が少ないので、あとから良い記念になる。
- ②近くなく遠くない地域で投函する。4月30日に引受局の消印、5月1日に自宅近くの配達局の消印でなければ意味がない。自宅近くのポストだと、当日中に配達されてしまうか、消印が一種類になってしまう。遠すぎると、速達でも翌々日になってしまう恐れがある。多摩地区、埼玉、千葉、群馬などから東京に送るのがベストだろう。
- ③切手は記念切手ではなく、普通切手を使う。その時期に郵便局で売っている普通切手を、その額面に

ふさわしい使い方をすることが重要だ。今回の場合、280円切手は「速達料金」なので、これは郵趣のことばで「切手の適正使用」という。



これが用意した官製はがきだ。もともとの額面62円に速達料金の普通切手280円を追加してある。これは郵趣(郵便関係の趣味)では「適正使用」と呼ばれ、あとあと非常に価値が高くなる組み合わせである。そもそも、はがきを速達で送るということ自体、非常に珍しい。

こちらは「郵便書簡」という、これもまた珍しい郵便物。三つ折りの便箋付きのはがきのようなもので、はがきよりもずっとたくさん書け、25gまでなら中に物も入れられる。料金ははがきと同じ62円だ。これも速達にするのは非常に珍しい使い方だ。



私はこれらを何枚も用意した。東京近郊の友人や同僚に頼んで、自宅に送ってもらうように依頼する。宛名も直筆で書いてもらう。ワープロ打ちではなく、実際に信書として送られた郵便物(これを実通便という)のほうが、より価値が高いのだ。

呆れた趣味かも知れないが、「平成から令和への手紙」を手に入れるチャンスは、4月30日投函の速達郵便以外にはなく、非常に稀で貴重なチャンスだ。配達してくれる局員さんには申し訳ないが、280円切手を何枚も購入したので、許してもらえらるだろう。興味のある方は、是非試していただきたい。